

こうじ 工事の げんば 現場より

こうじ げんば りんしゅんかく とくべつしゅっちょう
工事現場の臨春閣から特別出張！

企画展特別 ver.

vol.1 数寄屋



臨春閣は「数寄屋風書院」とされ、「書院」としての格式と定型を持ちながら、「数寄」、すなわちデザインや素材に「好み」を盛り込んでいる建築様式です。品がありながらも遊び心が盛り込まれた、洒落た空間が形成されています。



第二屋「住之江の間」の天井は、「竿縁天井」を卍状に組み合わせたとても珍しい意匠です。竿には自然のままの丸太材が用いられているのも数寄屋らしい造形、この竿材は全体が均一な太さになるよう一本の木を二つに分け太さを揃えるようつなぎ合わせてあります。

「数寄屋」とは？

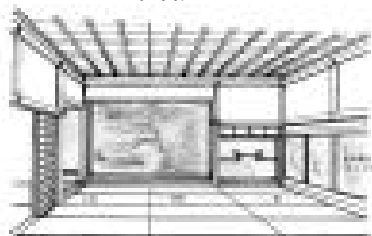
音の同じ「好き」から派生したとされる言葉で、己の好みを表したものであるというのが基本となり、「数寄屋建築」というと自分の好きなもので好きなように作り上げた建築のことを表すようになります。ルールや格式に則った建築「書院造」と比べられる様式です。

数寄屋の源流は茶室とみなされており、茶室のうち千利休が発案した「草庵風茶室」は田舎家、すなわち素朴な農家から着想を得たとされています。農家建築では家の身近にある材をあるがまま使えるがままに加工して使いますが、自然のものは一つずつ形が異なるので、整形したもの同士を組み合わせるよりも多様で高度な技能が求められます。こうした素朴さと高度な技が芸術として昇華されたのが「草庵風茶室」であり、それに着想を得てさまざまな「数寄屋」が誕生していったのです。

真

格式ある表向きの様式

書院造

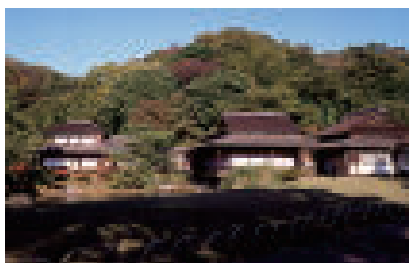


園城寺光浄院客殿

行

← 中間 →

数寄屋風書院造



草

くずした風雅な様式

数寄屋造／茶室



春草廬